



“ 吉祥寺のまちに何度も救われてきました ”

細田 守さん

映画監督

『時をかける少女』を作っていた2005年、それまで住んでいた練馬区から吉祥寺に引っ越しました。杉並区にあった制作スタジオへ通うのに便利なのと、以前から中央線沿線のカルチャーへのあこがれがあって、少し家賃は高かったけど吉祥寺の中心街でがんばってみよう、と。住んでみると意外に庶民的で居心地がいいし、あこがれとは別の「素」のまちの良さが分かってきました。

僕の場合、メディアで知ったことより、身近なことから影響を受けることが多いんです。シナリオや絵コンテを作る時、カフェやファミレスをハシゴすることも

日常茶飯事で、『おおかみこどもの雨と雪』の時は井の頭公園入口（七井橋通り）のスターバックスのテラス席で犬を連れた人や子ども連れの人たちを眺めながら思い付いたことがたくさんあります。『サマーウォーズ』の時はサンロードのエクセルシオールカフェでした。作品と店との相性も含め、そこじやなきや思い付かなかったことが山ほどあって、吉祥

寺のまちには何度も救われてきました。いろんな人がいるカフェであれこれ模索していると、不思議と「遠い世界じゃなく、今目の前にいるこの人のために自分には作っているんだ」と思えるんですよ。創作上の刺激がある一方、子育ての視点で見ると、武蔵野市にはまた違う良さがあることが分かります。坂が少なく、自転車での移動もラクだし、保育園の待機児童がゼロだったり、学校の数が多かったです。子育てに適した環境が想像以上に整っていました。

今、少子化にもかかわらず、社会で子どもが疎まれる存在になっているように見えるのが気掛かりです。僕はこれまで学校などで居場所のない子どもたちを応援するスタンスで作品を作ってきましたが、この混沌とした時代をどうやったら前向きに生きていけるのか、アニメーションを含めたフィクションの力がますます問われています。これからも微力ながら、みんなを励まし、小さな希望になるような作品を作り続けたいですね。



細田 守（ほそだ・まもる）

1967年生まれ。富山県出身。東映アニメーションを経て映画監督に。『時をかける少女』『サマーウォーズ』などで国内外の評価を得る。2011年、アニメーション映画制作会社「スタジオ地図」を設立。2018年公開の『未来のミライ』は米アカデミー賞長編アニメーション映画賞にノミネートされた。現在、新作アニメーション映画を制作中。

